

平成29年度 帯広市教育研究所 第1回 運営委員会 記録

日時 平成29年6月5日(月) 午後1時00分～2時20分  
場所 市庁舎8階 教育委員会室

<出席者>

中野学校教育部長	橋場学校指導担当部長
村松学校指導担当企画監	福原調整監
井出 賀津雄委員長	瀧川 秀敏副委員長
市之川 敦子委員	松本 奈津子委員
谷保 寿彦委員	杉本 伸子委員
花井 豊委員	堂山 貴也委員
藤崎 博人委員	多治見指導主事
中島調査研究専門指導員	本郷事務員

☆ 委任状交付

- 1 学校教育部長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 運営委員長及び副委員長の選出・挨拶
- 4 諮問
- 5 議事
  - (1) 平成28年度事業報告
  - (2) 平成29年度運営方針
  - (3) 平成29年度研究事業
  - (4) その他

6 質疑事項・ご意見(○ご意見 ◎質問 →回答)

○帯広市教育研究所は、多方面にわたって研究したり、資料の作成に関わっているのだと改めて思った。平成29年度の教育研究にも、是非期待したい。

○各種作成教材を、クラウド型で教育研究所から発信されていることが素晴らしい。

◎問題の中でABCと3種類の問題があったが、やはり市内の子どもたちの中で学力差があるのか？

→学力差に応じるために、児童・生徒の思考に沿った形で教材を提供している。より精度を高め、先生方の指導の一助となるようにしていく。

◎教育研究所のHPより、一般の家庭から問題を取り出すことができることを初めて確認できた。学校外で教育を受けたくても均等に塾等などで補充できるわけではないので、家庭で学習できる教材を用意するのは大変良い。もう少し周知を期待する。

→周知は学校に頼っている。各学校のHPに研究所へのバナーを作っているのも、そこから教材にたどり着くようになっている。スマートフォンやタブレットなどでもできるようにしている。今後さらに周知するようにしていく。

◎夏季教員研修講座・冬季教員研修講座等、各研修の内容はどのように決めているか。教育講演会は、27年度に比べて参加が100名も多いが、どうしてか？

→研修内容については、研修が終わってからアンケートに記入してもらっている。また、研修プログラムの委託委員会において、内容や、ニーズに合っているか等を校長・教頭に伺って決めている。講演会の参加人数については、例年、日程で多少の増減はあ

るが、昨年度は道徳の講演ということもあり、参加者の興味が高かったことが推察される。

◎教育研究所の年間の問い合わせ数と来所者が多いと思うが、業務の実態はどのようなものであるのか。

→問い合わせについては、主に研究相談や、研修参加、情報支援の依頼等、学校とのやりとりが多い。1日に10件は軽く超えるので、年間で2034件という実績値となった。来所者については、研修の参加者も含めての延べ人数である。また、研究所員も17名が年間に何度も来所するので、こちらも実績値として1955名となった。

◎ICTに関する分野は、これからも積極的に取り組みたい内容である。研究所としての展望を教えて欲しい。

→夏季研修講座にて、1日を丸ごと「ICTの日」として、研修会を開く。タブレットPCの活用法と、プレゼンテーションソフトについての活用講座である。また、所員の研究でも引き続き行っていく。

○学校現場には、ICT活用のためのモニターが少ない。実物投影機やタブレット使ったとしても、教室で写すのにはモニターが足りない。使えるようになるのが先が、モニターがそろるのが先かは分からないが、ICT機器を使いこなせるような研修は続けて欲しい。

○クラウドサーバーの周知については、授業参観日の懇談会時やプリント配付で全体に周知している。研究所の作成物を先生方が上手に使えるように、校内研修を充実させていきたいと考えている。

○クラウドやビデオ等、研究所の作成物を学校で使っている。クラウドサーバーを通して担任が教材を手に入れることができるので、便利になったと思っている。

○帯教研については、教職員が忙しい勤務の中、時数調整などをして行くので重要な時間だと思っている。小・中学校の教職員が一同に集まり、共に研究することは、大変貴重な場であるので、帯教研を大事に進めていっていただきたい。

○学校で先生方が、このように研究所の教材などを活用して授業に取り組んでいることを確認できた。

○学級では、家庭学習でクラウドの問題をプリントして使えるということを周知している。家庭訪問等をしていると、パソコン環境が整っている家庭ばかりだとは限らないことに気づく。地域の実態を把握し、できるだけ誰もが活用できる体制を期待したい。

## 7 閉会